

サザナミツボ *Nozeva ziczac* (Fukuda et Ekawa)

【選定理由】

本種は近年記載された微小種で内湾奥に生息することが知られているが、詳しい生息場所については明らかにされていなかった (Fukuda & Ekawa, 1997)。県内でも、軟体部の残った個体が三河湾、伊勢湾の4カ所から採集されていた (田中・河合, 1998; 河合, 1998)。従って、県内に生息していることは確実であったが、本種の生貝は2008年に庄内川河口の泥質干潟上の石の下面より初めて採集された (木村, 2010)。その後の調査では、知多半島河和 (三河湾) で1個体のみ生貝が確認された (早瀬・木村, 2017)。これ以外では軟体部が残った殻が稀に採集されることはあるが、生貝の採集記録はない。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。

【形態】

殻長約2 mm。微小な卵型の殻で、殻質は光沢のあるガラス質で半透明。殻表にジグザグの螺溝を多数めぐらすことが特徴で、和名の由来でもある。



名古屋市庄内川河口, 2008年7月13日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、打ち上げられた個体が県内数カ所で採集された。生貝は現在までに庄内川河口域、河和 (早瀬・木村, 2017) で見ついている。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、国内では陸奥湾・男鹿半島～南西諸島 (奄美大島、沖縄島) に分布する (福田, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

本種は内湾奥の河口域の特殊な生息環境に生息し、生息場所自体が護岸工事や埋め立てなどで容易に改変もしくは消失する可能性が高い。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯付近の環境を保全する。干潟の埋め立てをこれ以上行わないこと、護岸工事については干潟側を一切改変しない工法などを用いて施工する必要がある。工事の過程で重機を干潟側に一時的に乗り入れることだけでも大きな影響を及ぼすと考えられる。

【引用文献】

- 早瀬善正・木村昭一, 2017. 河和 (三河湾) の内湾潮間帯の貝類相. ちりぼたん, 47 (1-4): 28-42.
Fukuda & Ekawa, 1997. Description and anatomy of a new species of the Elachisinidae (Caenogastropoda:Rissooidea) from Japan. The Yuriyagai, Journal of the Malacozoological Association of Yamaguchi, 5 (1/2): 69-88.
福田 宏, 2012. サザナミツボ, p. 40. in: 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
河合秀高, 1998. 内湾性稀少種サザナミツボの新産地. かきつばた, (24): 16-17. 名古屋貝類談話会.
木村昭一, 2010. サザナミツボ, p. 189. in: レッドデータブックなごや2010 (2004年版補遺), 316pp. 名古屋市環境局.
田中利雄・河合秀高, 1998. 愛知県渥美半島西ノ浜の打上げ貝. 豊橋市自然史博物館研究報告, 8: 33-36.

(木村昭一)